

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100689		
法人名	社会福祉法人 鳥取福祉会		
事業所名	マロニエの樹		
所在地	鳥取市南吉方2丁目28-2		
自己評価作成日	令和6年12月31日	評価結果市町村受理日	令和7年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和7年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「私らしく暮らすぬくもりの日々」という施設理念の基、笑顔があふれ楽しく陽だまりのように優しい温かさのある施設を職員一人ひとりが目指しています。

・家庭的な雰囲気の中で、個別支援に力を入れそれぞれのニーズに沿ったケアの実践を心掛けています。

・笑顔を心掛け、ゆっくりとご利用者に寄り添い思いを受け止め思いやりのある介護に努めています。

・残存能力が低下しない様に、日常生活の中で出来る事を見つけ、ご利用者一人ひとりに合った自立支援をサポートし、楽しく支え合いながら生活が送れるよう支援しています。

・なるべく過介護にならないよう、焦らず待つ介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「マロニエの樹」は、同じ敷地内にある小規模多機能事業所「木もれ陽」との機能を併せた地域密着型複合施設である。地域に根ざした施設を目指され、近隣の方との交流の場「木もれ陽カフェ」を毎月開催し、認知症への理解を深めようと共に困りごと相談等気軽に話せる場を提供されている。また、電子カルテを導入し、全職員が利用者への的確なケアに一層取り組めるようになった。私らしく暮らすぬくもりの日々という施設理念の基、待てる介護を心掛けながらケアに努められている。尚、ライン、テレビ電話等の有効活用により、利用者家族が安心されている様子が伝わりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ディールーム内に2か所掲示し、何時でも目につきやすく、職員が周知して共有出来る様になっている。また、ご利用者一人ひとりに寄り添う介護を心がけている。	理念は、ディールーム内の2か所に提示されている。利用者が私らしく暮らせるよう全職員は理念を共有し、一人ひとりに寄り添えるよう実践に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し地域活動に参加しようとしていたが、コロナ5類移行後もR6年度には施設内で初めてコロナクラスターを経験したり、市中感染状況も鑑みて施設から出かける事に躊躇しているのが現状。代わりに「木もれ陽カフェ」で地域の方を招き介護相談を受けたり、ボランティアや実習を受け入れるなど地域との関わりを持つよう努めている。	町内会の納涼祭、日進小学校と地区合同の運動会の応援等、感染状況を確認されながら参加された。また、ボランティアや実習の受け入れ等の他、施設内での「木もれ陽カフェ」の開催など地域との交流を深められている。尚、年2回広報誌を発行し、情報発信されている。	施設内での「木もれ陽カフェ」を地域住民等に周知出来る方法を工夫されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に出かけて何かをするわけではなく、木もれ陽カフェ等に来所いただいた方の相談などに応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月/回 奇数月)に運営推進会議を実施し、活動報告、事故報告等を行い、家族、地域の代表、行政の方の助言、要望等の意見を頂き、サービスの向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施され、活動報告、事故報告等が行なわれている。また、参加メンバーより助言や意見を受け、回答するなど双方向での話し合いをされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者や包括支援センターの方にも参加していただき、事業所の運営状況を報告している。事業所の理解、把握をしていただく事で助言をいただきながら協力関係を構築できるよう努めている。	市の担当者や包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーであり、常日頃から事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えられながら、協力関係が築けるよう取り組まれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議にて身体的拘束等の行為が行われていないかを確認し、3か月に1回身体的拘束等適正化委員会を開催し、身体的拘束等につながるグレーゾーンなケアや具体的な事例に対して検討等を行っている。また、年2回の定期研修と入職時の研修を行い、身体的拘束等を行わないケアに努めている。	年2回、定期研修が行なわれる他、新規採用職員の入職、異動時の現任研修をされ、身体拘束等を行わないケアに努められている。また、3か月に1回身体的拘束等適正化委員会が開催され、介護支援の課題や検討が行われたり、利用者の見守りのためのミラーやセンサーを設置し、安心安全に生活できるように工夫されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の定期研修による意識啓発、及び虐待の兆候と未然防止の為の虐待防止チェックを年2回行い、虐待防止の周知徹底を図っている。また、入浴時等、身体を観察により虐待への注意を払っている。その他、言葉遣いや接遇面といったサービスマナーを見直す機会としても位置付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者の中に成年後見制度を使っておられる方はいないが、ご利用者の意向を理解し、後見人にその旨を伝えて双方の関係が維持出来るように、職員向けの制度理解の研修会が必要と感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分説明を行い不安や疑問、意向を聞きながら納得を得るようにしている。入居後も共に入所者の方を支えるようご家族と共に適宜相談を行うことを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努めるとともに、面会時には利用者、家族との連携を図り要望、意見を傾聴するようにしている。 コロナ5類移行後は家族会開催や参加者を制限してではあるが、家族参加の行事などを行っている。また、年に一度は利用者、家族アンケートで意見を募り運営に反映させている。	利用者、利用者家族に年1回、満足度調査を実施しその結果は、毎月のお便りと共に利用者家族に送付され、そこでの意見を運営に反映されている。また、今年度は、家族会も合わせて敬老会を実施された。尚、事業所と利用者家族はライン交換をし、随時利用者の日常の様子がわかるよう努められている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会以外でも、ミーティング(申し送り)時や、ワークシートを活用しコミュニケーションを図り意見交換を行い、提案を取り入れ施設の活性化に繋げている。また、年2回、管理者と職員が面談し、個々の年間目標について話し合われ、施設運営の活性化に繋がられている。	年2回、管理者と職員は面談を行い、個々の年間目標について話し合われる等意見交換をされ、そこでの意見等を、施設の活性化に繋がられるように、職場環境の整備に努められている。また、ミーティングやワークシート(メモ書き)を活用しながら利用者の様子やバイタルチェックをされ、全職員が共有出来るように取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安全衛生委員会で、ストレスチェック及び安全衛生環境調査をそれぞれ年1回行い職員の意見要望を汲み取り、職場環境改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修カリキュラムに基づき、習熟度に合わせた研修参加を行っている。研修後は、報告書を回覧し、職員間で共有し意欲の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は相互に他事業所の運営推進会議に参加し、施設の雰囲気や運営状況などを見聞きし、意見交換をすることで、自施設のサービスの質の向上に寄与している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い話を聴くように努めている。話の内容は、職員間で共有し今後のケア支援や環境作り等に繋げるようにしている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には、十分説明を行い不安や疑問、意向を聞きながら納得を得るようにしている。入居後も共に入所者の方を支えるようご家族と情報共有を図るようLINE交換を行い、日常の様子を伝えたり、質問をいただくなど情報共有のツールとして適宜活用している。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の体調変化や、ご家族の状況も勘案しながら、最適と思われるサービスの提案をさせていただき、随時相談に応じ一緒に対応を検討している。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えて頂く気持ちを持ち、支えあう関係が築けるよう共に楽しみながら、日常の「暮らし」の中で出来る事を考え、行っていただく事で感謝の気持ちを伝えられるようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	月1回の定期的な書面での近況報告だけで はなく、適宜日常の様子や体調の変化、必 要物品の依頼などの連絡を行う事で、多忙 や遠方等でなかなか会えなくても疎遠になる ことなく関係性を保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、知人の訪問時には体調確認 と玄関先での検温、マスク着用、手指消毒な ど感染対策を行っていただき、居室にてゆっ くり面会いただいている。県外や忙しくて面会 に來られないご家族に対してはiPadを活用し たテレビ電話やLINE等で日常の様子などをタ イムリーにお届けするよう努めている。また、 お送りした動画や写真は家族内で共有され 喜ばれている。	iPadを活用して、ライン、テレビ電話で利用者 の様子を伝え、送った動画や写真は、家族内 で共有される等喜ばれている。尚、利用者家 族、親戚、知人の訪問時には、体調確認され ながら、本年度は居室にてゆっくり面会でき るような支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	難聴や理解力の低下などにより利用者同士 のコミュニケーションが難しい場合、職員が 仲介役として間に入りご利用者同士が円滑 に関わりを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院からの退居により契約終了しているが、 今後の対応など相談事があればいつでも相 談していただくようお願いし、LINE登録もその ままに関係性の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	話を傾聴し職員間で情報共有を行い、本人 様の希望・意向に添えた生活が送れるよう支 援し、ゆっくりと関われる時間を持つように努 めている。ご家族からも、「生活歴・生活習慣 記入表」や面会時の会話などから情報収集 を行い、思いを叶えられるよう努めている。	フェースシート(私の情報シート)を作成され、 利用者、利用者家族より聞き取りをされる等 思いを叶えられるように支援に努められてい る。また、困難な利用者については、本人本 位に検討し、ゆっくりと関われる時間を持つよ う努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集として「生活歴・生活習慣記入表」を作成し、ご家族で分かる範囲で記入していただき、個別のサービス提供に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状での「できること・できないこと」を担当が中心となって書面にまとめ情報を可視化して共有に努め、定期的(年1回以上)に見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度、モニタリングを行い、状況に応じてご利用者のケアを見直している。また、担当者会議の際には現状の様子を理解して頂き、話し合いのもと、双方が納得のいくケアに結びつくように進めている。	毎月のケアカンファレンスで利用者の介護計画を見直されている。介護計画は、6ヶ月～1年、3か月に1度モニタリングが行なわれ、状況に応じて利用者のケアの見直しを行い、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化、気づきなどがあればその都度、経過記録に残し職員が周知出来る様になっている。毎月ケアカンファレンスを行い、統一したケアが行われる様に情報を共有。気になる事等も話し合い、業務内容を振り返る場としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態等を把握し、家族状況なども理解できるよう、常にコミュニケーションを図り状況把握に努めている。ニーズに対し、出来る範囲で相談、既存の物で出来る工夫を職員で考え対応できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類移行後もコロナクラスターを経験するなど、外出に対しては慎重になり、ご家族と一緒に個人的外出の他はグループホームとしての外出はほとんどなかった。外出は難しかったが、施設に居ながらにして買い物や外食気分を味わっていただくようメニューからお好きな物を選んでいただきテイクアウトするなど地域で暮らしていると感じていただけるよう努めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の内7名は協力医となっていたいて、とっとり在宅ケア・漢方クリニックが主治医となっており、往診前には直近の様子などをお伝えして適切な医療が受けられるよう支援している。他2名はご家族付き添いでかかりつけ医へ受診されているが、食事、排泄、バイタルなどの情報を適宜お伝えしたり、書面でお渡しするなどしてかかりつけ医との連携を図っている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。日頃の様子や健康状態を伝えられながら、適切な医療が受けられるよう支援されている。尚、急変時等、必要な場合は、職員が同行受診されている。また、希望される方には協力歯科医によるおおよそ3か月毎の定期往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無く、協力医療機関であるとっとり在宅ケア・漢方クリニックと密に連携をとり、月2回の定期往診とは別に必要に応じて適宜相談を行い指示を仰ぐようにしている。（かかりつけ医が別にある方は主治医へ確認している） 急を要さない場合は、併設の小規模多機能事業所の看護師に相談しアドバイスをもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には病院に出向き、症状などについて様子をうかがい、今後の対応に繋げている。また、相談時は電話連絡出来るようにして連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の事業所の方針を説明している。重度化した場合は家族、本人、主治医、ケアマネと相談し方針を決定する様にしている。 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の活用に向け、書類の整備と職員勉強会を進めているが、日常業務に追われ運用にまで至っていないのが現状。	入居の際、重度化した場合について、事業所として出来る事、出来ない事を説明し、方針を伝えられている。急変時や事故発生に備え「夜間及び管理者不在時の緊急連絡」についてのマニュアルを作成し、全職員に周知されている。また、ACP(～人生会議「わたしの心づもり」～)を活用し、中間施設として、早い段階で今後のケアの希望を確認しながら終末期に向けての支援に取り組む為、勉強会を実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、デイルームに掲示するとともに、年1回全職員対象の研修でレサシアンシミュレーターを用いて救急救命法(心肺蘇生、AED)を学び、いざという時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害(地震、風水害)対策マニュアルを作成し、直ぐに確認しやすい場所に保管。地震、風水害を想定した避難訓練を利用者参加型で併設事業所と合同で実施。勤務都合により訓練不参加者には資料を回覧して周知を図った。	年2回、火災及び風水害の避難訓練が、併設事業所(木もれ陽)と合同で実施されている。6月には、火災避難訓練と合わせて水害想定で図上訓練が行なわれ、3月は、夜間想定で訓練を実施の予定である。また、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)も作成されている。備蓄はある。	避難時の入所者の所在確認の方法について再度検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの特性や今までの人生背景、認知症の症状を正しく理解し、感情や気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。 職員間で、情報を共有し自分だけではなく多様な視点で利用者と向き合い、個々にあった声掛けや対応に努めている。	入所時の聞き取りや生活歴をふまえ、一人ひとりの思いに寄り添い、待つ介護を心がけながら、笑顔で声掛けし明るい雰囲気作りに努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の水補時の飲み物選びや、月に2回ほど好きなパンを選び、朝食に召し上がっていただいたり、入浴時の着替え選びなど自己決定の機会を設けるよう努めている。 また、新聞広告やTV等から得られた情報をもとに食べたいお菓子や季節の果物など、会話から希望を伺い提供すよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュール(朝昼夕の食事)は決まっているが、新聞やテレビを見たり、お喋りをされたり、お手伝いをされたり、居室でのんびり過ごされる方もいる。 なるべく利用者の方が楽しめることを提供するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室内に櫛や化粧水など個々の好みに合わせて準備し、適宜整容の声掛けを行っている。 また、入浴時の着替えの選択や福祉理美容依頼の際にお気に入りの理容師にお願いするなど一人ひとりのこだわりに配慮した支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は配膳、食器拭き、テーブル拭き等と一緒にいき、明るいダイニングで、音楽を聞きながらゆったりと食事時間を楽しんでいる。月1～2回のご当地メニューや二十四節気、節分やひな祭り等の行事にちなんだメニューの提供。月に一回程度、クッキングの日を設け利用者の方と一緒にメニューを決め、役割を持って調理に参加して楽しめるよう工夫している。	食事は季節や行事ごとのメニューが提供され、献立の記入や下膳、食器拭き等、利用者と職員で一緒に行われている。利用者の誕生日には、ケーキでお祝いされたり月1回程度のデザート作りも楽しまれている。また、月2回、利用者の好みのパンを朝食に提供される他、牛丼やそば等、テイクアウトの品を提供し、食事が楽しみなものになる様工夫されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、食事の提供を行っている。食札にご飯の量、柔らかさ、形態等を記載して統一した食事を提供している。咀嚼・嚥下状態や体調などに合わせ、提供量や食事形態、メニュー変更などで対応している。また、食欲を引き出す声掛けなどの工夫や器の選定などに努めている。 朝食後、10時と昼食後、15時に嗜好品(水分)の提供、週2回の入浴後にはスポーツドリンクで水分補給を行っている。 水分摂取量の少ない方に対しては少量ずつ回数を分けて提供したり、イオンサポートゼリーを提供したり、入れ物を替えて提供するなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで口腔内を確認し、声かけ・道具のセット・仕上げ磨きなど一人ひとりに合った口腔ケアの実践に努めている。また、必要に応じて協力医療機関である「みなみ歯科」に往診していただきケア方法などの相談をしてアドバイスをいただいている。 週に1度、ポリドント等を用いて義歯洗浄を行い、うがいのコップや歯ブラシなど口腔ケアセットも毎週日曜消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間でパッドの種類を変え、排泄動作も考慮した個別に適したギャザパンツや尿取りパッドを使用。 トイレに行く際には時間、排泄の有無、失禁の状態も電カルに記録し、職員間で情報の共有を図っている。状態を見ながら声掛けを行い、少しでも失禁を減らしトイレで排泄できる支援を心掛けている。	個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けされている。パンツや尿取りパットの種類を日中、夜間で変えられたり、排泄の有無、失禁の状態を電子カルテ等に記録し、職員間で共有しながら、トイレでの排泄に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、夜間でパッドの種類を変え、排泄動作も考慮した個別に適した紙パンツや尿取りパッドを使用。トイレに行く際には最終の時間、排泄の有無、失禁の状態も電カル等に記録し、職員間で情報の共有を図っている。状態を見ながら声掛けを行い、少しでも失禁を減らしトイレで排泄できる支援を心掛けている。排便の有無を記録し、日々の排便コントロールに努めている。便秘傾向の方は、水分量、食事量の変化、心身の状態変化等を観察し対応に繋げている。 細めな水分補給や乳酸菌等の便通を良くする食品の提供、また、歩行などの適度な運動を生活の中に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良や、強い入浴拒否の場合を除き、週2回以上の入浴を行っている。脱衣場の温度、湿度、風呂の湯温を管理・測定し、安心して入浴できる環境作りに努めている。 柚子風呂や、入浴剤を使用してリラックスできるような工夫を取り入れている。また、体調不良や入浴拒否の場合、入浴メンバーの入れ替えをするなど、時間や日に変更に対応している。	入浴は個浴にて、午前中に行われている。脱衣場は、温度、湿度に気を配られ、明るく清潔感がある。浴室には、随所に手すりが設けられ、安心して、入浴出来るように配慮されている。入浴拒否がある場合は、無理強いせず、言葉かけを工夫しながら、週2回以上入浴出来るように支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身状態に応じ、昼食後の午睡や適宜ベッドに臥床して休息を促している。居室のエアコン調整や照明調節など、就寝時が快適に過ごせるよう居室環境の調整も行っている。夜間、良眠できるよう日中に歩行の機会や、食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみなどの家事への参加を促して日常の中で活動量が増える支援を行っている。また、天候を見ながら施設周辺の散歩など外気浴の提供も積極的に実施するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表ファイルに各個人の処方箋を綴り、何時でも確認出来るようにしている。薬の管理は、主に各利用者担当が行くことで、薬に対する意識が高まっている。処方変更時は、記録に残して引継ぎにて情報共有し、心身の状態変化の観察に努め、普段と違う様子があれば経過に記録し、情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	水分補給時に提供する飲み物は、メニュー表の中から選択して頂き、選ぶ楽しみを大切にしている。また、ゴミ捨てや洗い物など家事活動を行う中で、役割を持って生活して頂くように支援している。毎月の行事や生け花の日等、適宜お知らせする事で楽しみにされているご利用者もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類移行後も人の出入りの多い場所への外出は控えているが、敷地内または施設周辺であればゴミ捨てや散歩に出かけている。また、ご家族と定期的に外出され気分転換を図っておられる方もいる。	年間行事に添って年4回～5回、桜や藤棚の花見、秋は紅葉狩り等のドライブ外出に出かけている。コロナ5類移行後も、人の多い場所への外出は、控えながら、ゴミ捨てや施設周辺の散歩、ウッドデッキの鉢植えの花への水やり等外気浴の機会が持てるよう支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭を持たれ、福祉理美容利用時にはご自分で支払いをされる方もおられるが、多くの方は金銭管理が難しくご家族と相談の上、施設でお金を預かれるよう金銭管理契約を締結している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次はもちろん、ご利用者からご家族と連絡取りたいと要望あれば状況に応じて対応している。コロナ禍の面会制限があった頃から、LINEなどを活用してご家族とのやりとりを積極的に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる壁飾りを職員、ご利用者が協力しながら一緒に作成。温度、湿度計を設置し、換気を行いつつも室内の温度調整に努めている。カーテンによる採光調整などより良い空間作りに努めている。	共用空間は、温度、湿度に気を配られ、掃除が行き届き、ガラス窓から明るい光が差し込んでいる。、壁には季節の飾りが飾られ快適な空間で、利用者は思い思いの場所でテレビやパズル等を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっと座って休めたり、隣り合わせに座って会話を楽しんだり出来るようイスやソファを配置し、自分の居場所と感じていただけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には大きな文字で名札を設置し、認識しやすい工夫をすると共に、居室までの動線(通路の確保、伝い歩き出来る環境など)を考えてDR内並びに居室内のレイアウトを適宜検討している。 また、家族の写真であったり入居前から使用されていた馴染みの物などを置く事で落ち着ける空間となるよう努めている。	居室入り口は、名札の他、、写真や趣味の作品が飾られ、分かりやすいよう工夫されている。各居室内には、エアコン、ベット、クローゼット、洗面台、トイレが設置されている。また、テレビや机、タンス等、自宅で使い慣れた家具等が持ち込まれ、家族写真や趣味の作品が飾られ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	他利用者の居室への侵入に対して不安を覚える方に対して、自身で施錠できる鍵の設置。常時所在確認が必要な方の見守りの為に死角となりやすい場所をなくしていくようミラーの設置。転倒予防の為にセンサー設置。		